

會 報

◇昨年度の年會は本年度と合せて行ふこととして、會員の御了解を得たのであつたが、戰の様相は本年に入つて一段と厳しく、到底年會などの開催は不可能となつた。恐らく戦局の推移に従つて當分、無期延期といふことにならうと思はれる。何卒御諒承願ひたい。

◇其後本會の研究及び事業は極めて不活潑である。しかしそれは一方に會員の大部分が戦時研究に動員されて一刻もゆるかずに出来ない問題と與へられ日夜奮闘してゐるからであつて、科學史研究は一時的には中止の態となるのもまた止むを得ない。勿論撃々として史的研究をつづけてゐられる向きもある。しかし會合や研究發表の機會が次第に制限されて來たため、戦争後に之等の成果が明にされるであらうが當分は之も隠されてゐることにならう。即ち「科學史研究」の發行も本號以後は何日になるか見當がつかぬ氣がするからである。

◇本會の事務所は今回東京帝大理學部植物學教室の疎開と共に左記の同分室内に臨時に移轉することになつた。

山梨縣北巨摩郡鹽崎村駒澤二七〇

東大理學部植物學教室鹽崎分室内

例 會

◇委員及び幹事會は昭和十九年五月二十二日(月)午後四時、六月二十三日(木)午後四時及び十一月十一日(土)午後五時よりいづれも學士會館に於て開催し、意見の交換、今後の方針その他について協議懇談したが、結局戦局の見通しがつかない以上、當分このまゝ諸種の事業、會合はさしひかへることに意見が一致した。たゞし機關誌だけは可能な限り刊行を続け、出来るかぎり軍事科學、戦時研究其他に関する科學史的研究を集録する方針をとることになつた。

關西支部公開講演

◇京都市との共同主催の下に、京都の先覺科學者を語る公開講演會を昭和十九年九月二十四日(日)午後一時より京都市岡崎公會堂に於て開催した。

- 1、角倉了以の事蹟 藤田元春氏
- 2、保井春海と貞享改曆 上川 穰氏
- 3、本草學者小野蘭山の業績 菊池秋雄氏